

ベラルーシ公開情報取りまとめ

(3月9日～3月15日)

2019年3月28日

在ベラルーシ大使館

【主な出来事】

- ルカシェンコ大統領が国家安全保障会議を召集し、情報の安全保障について議論(3/12)
- パービチ露大使のインタビューでの発言とそれに続くベラルーシ外務省との応酬(3/14, 15)
- 米務省:ベラルーシは人権侵害の罪を背負う公職者を罰する措置を執っていない。(3/14)

内政・外交

【ルカシェンコ大統領動静】

●国家安全保障会議を召集(3/12)

大統領の指示で作成された情報の安全保障についてのコンセプトが国家安全保障会議の議論に付された。大統領は、情報の安全保障のためには、国家の効果的な活動が不可欠と強調。

(3月12日付大統領公式サイト, ベラパン通信)

●コチャノヴァ大統領府長官との面会(3/14)

3月1日に行われた大統領とメディアとの対話集会や12日に行われた情報の安全保障についての国家安全保障会議会合などを総括。大統領はまた、来たるべき大統領選挙と議会選挙の準備について報告を受けた。

(3月14日付大統領公式サイト, 国営ベルタ通信)

【内政】

●オストロヴェツ原発に関するカリンシュ・ラトビア首相の発言(3/9)

「オストロヴェツ原発をガス火力発電所に作り替えるというアイデアは実現可能。決定はベラルーシが握っている。」

(3月9日付ベラパン通信)

●反原子力団体がオストロヴェツ原発の建設中止を求める声明を発表。(3/11)

福島原発事故から8年となった3月11日、当局に対して国内の原発建設中止を要求。

(3月11日付ベラパン通信)

●米務省:ベラルーシは人権侵害の罪を背負う公職者を罰する措置を執っていない。

同省が毎年発行している世界の人権状況に関する報告書の中で指摘。同報告書の中では更に、「ベラルーシ国民は自由かつ公正な選挙によって自国の政府を選ぶことができなくなかった。1994年の大統領就任以降、ルカシェンコ氏は選挙操作や恣意的な大統領令を含む独裁的手段で権力基盤を強化し、法の支配を損ねてきた。これまでの就任後のいずれの大統領選挙も、2016年の議会選挙も、国際標準に合致しないものだった。」と指摘されている。

(3月14日付ベラパン通信)

【外交】

●ベラルーシ政府発表:建設中のオストロヴェツ原発に関するリトアニア政府からの提案は未接到(3/11)

同発表は、リトアニアとベラルーシのメディアで、スクヴェルネリス・リトアニア首相がガルマス首相に同原発に関する提案の書簡を送ったと報道されていることを受けてのもの。

(3月11日付国営ベルタ通信)

●シェスタコフ外務次官のスロバキア訪問(3/12-13)

「シェ」外務次官は、貿易経済・学術技術協力に係るベラルーシ・スロバキア合同委員会のベラルーシ側共同議長。同委員会のスロバキア側共同議長である同国のホヴァンツ経済省国家書記を含め、一連の

会談を実施。

(3月13日付外務省公式サイト, ベラパン通信)

●ベラルーシとロシアが国際的な情報安全保障の諸問題について協議を実施(3/13)

協議では, ベラルーシ側の安全保障会議国家書記代理であるアルチャコフと露側のカウンターパートであるフラモフとが議長を務めた。協議では, 情報通信技術の発展とその悪用によるリスクと脅威について意見が交わされた。また, 国連や OSCE などの国際機関における両国の協力や国際的な情報安全保障の確保に関するベラルーシ・ロシア協力協定の実施についても議論された。

(3月13日付ベラパン通信)

●ベラルーシには 3,000 人以上の中国人が留学中

カルペンコ教育大臣と(在ベラルーシ)中国人との会合で, 崔啓明・駐ベラルーシ中国大使が発言。崔大使は, 本年はミンスクで, ベラルーシ・中国政府間委員会の教育分野小委員会第5回会合が開催されると指摘。前回会合は 2018 年に北京で開催されたものの, 協力発展の重要な合意は達せられなかった。

(3月13日付国営ベルタ通信)

●バービチ駐ベラルーシ露大使のインタビュー要旨

・両国決済の 80%が両国通貨で行われているという事実は, 統一通貨と統一造幣局こそが現代における連合構築の合理的提案であることを示している。

・2018 年はベラルーシの輸出先としてのロシアのシェアが下がり, EU のシェアが上がったというが, 露の石油・ガス・石炭がなければベラルーシと EU の間の貿易高は大きくはないはず。

・(3月1日に行われたルカシェンコ大統領のメディアとの対話集会で同大統領から様々な発言があった旨言及し,)(ルカシェンコは)ロシアとロシア政府に生き方を指南する必要など無い。

・ベラルーシの友人達の自信の源となっている51億 3000万 USD の農産品の輸出についても, その内の 41億 USD つまり80%はロシアが輸入している。乳

製品に至っては2018年実績でベラルーシからの全輸出の85%が対露輸出, 食用油は同72%, チーズ製品は同84%だ。

・(天然ガスの対ベラルーシ輸出価格について,)統合されたガス市場の創設及び連合国家建設の進展と, 密接に結びついている。

(3月14日付露 RIA ノーヴォスチ)

●バービチ露大使の発言に対するグラス・ベラルーシ外務省報道官のコメント(3/15)

・両国と国民の関係は「バ」大使が持ち出しているインテキな諸数字などよりもはるかに深いものだ。

・「バ」大使は, 連邦管区と独立国家の違いを理解していないようだ。「バ」大使には, 任国の特性を研究し, 歴史を知り, 少しばかりの敬意を示すことに, より多くの時間を割くことお勧めする。

(3月15日付ベラパン通信)

●グラス外務省報道官による発言を受けた露側反応

・バービチ駐ベラルーシ露大使:

我々は, 当該コメントを発している人たちとは違って, 出回っている全ての情報を読み, 知り, 受け止め, 分析する余裕がある。(3/15, ヴィテプスク訪問中に)カラシン露外務次官:

我々には, ベラルーシ側が露大使をより敬意をもって遇することを期待する権利がある。

(3月15日付ベラパン通信)

【経済】

【国内経済】

●ベラルーシ自動車工場「ベラス」が露企業と共同で連合国家予算を活用して無人オフロード・ダンプカーの製造を開始。

(3月12日付ベラパン通信)

●ベラルーシは 2021 年までに再生可能エネルギーを用いた発電量を 800 メガワットまで拡大する計画

国家標準化委員会で議長代理を務めるマラシェンコ同委員会エネルギー効率局長が発表。

(3月12日付ベラパン通信)

【対外経済】

●2018年のハイテク製品輸出は前年比20%増の約140億USD。

シュミリン科学・技術国家委員会議長によると、スペインやアフリカ諸国へのハイテク製品輸出が増加。ベラルーシのハイテク製品で最も需要が高いのはマイクロ集積回路や医療機器。ベラルーシの全輸出に占めるハイテク製品の割合は、2018年は33.2%となり、前年比1%ポイント増加した。

(3月12日付国営ベルタ通信)

●世界銀行の資金を活用したベラルーシの銀行による中小ビジネス融資がユーロ建てでも可能に。

「ベラルーシ共和国における中小零細企業による融資アクセスの拡大」プロジェクトの実現のための、世銀による6,000万USDの貸し付けは、2017年にベラルーシ開発銀行に対してなされている。同銀行によると、当該プロジェクトは現在、積極活用の段階にあり、2019年3月から米ドルのみならずユーロ建てでも魅力的な金利で融資を受ける事が可能となった。

(3月15日付ベラパン通信)

【統計・その他】

●国家統計委員会:2019年2月のインフレ率は1.3%、価格変動の大きい特定の財・サービス価格を除いたコアCPIの上昇率(季節調整済み)は0.4%。

(3月11日付国営ベルタ通信)

(了)